

選挙戦中盤を迎える、各候補は18日、川崎市内各地で支持を訴えた。右から國谷氏、野末氏、福田氏、山田氏、関口氏



10・26
川崎
市長選

主要駅、イベント会場へ

配りが間に合わないほどの大勢の人が集まつたといふ。それでも、まだ思いは届いていないと実感する。

ど誰に投票すればいいのか。その判断材料としてどうやらをもらつてくれる人も増えてきた感触がある」と手応えをかみしめている。

けたい」と力を込めた。政党役員の新人、野末昭美氏(60)=共産党推薦は向ヶ丘遊園駅で演説をスタートした。告示日以降は街頭だけではなくSNSを毎日更新し、幅広い層へ支持を呼びかけている。「川崎市を変えていか

気にして仕方がない。思
いを一人でも多くの人に届

26日に投票開票を迎える川崎市長選は中盤を迎えて、各候補は18日、多くの人出でにぎわう主要駅周辺やイベント会場に立ち、有権者にそれぞれの訴えを届けた。秋晴れの空の下、支持を求める声が街に響き渡る。155万人都市のかじ取り役を託す1票を巡り、選挙戦はいよいよ熱を帯びている。

選挙戦中盤訴え熱く

J1川崎フロンターレのサポーターが集まる試合前の等々力緑地（中原区）に足を運んだ。4期目の公約を自ら配り、老若男女から写真撮影を求められた。「「

SNSなどの投稿の反響を
積み重ねた「アクション」
数は目標だった1万を4日
目で達成し、現在は「5万」
に上方修正。幅広い世代へ
の浸透を目指している。

元川崎市議の新人、山田瑛理氏(42)は武藏小杉駅で、「皆さんが今抱える大変なことを聞き、今よりすてきな街だと思ってもらえる川崎にしていきたい」と繰り返し訴えた。

称した政策を伝える場を設け、これまでに約100カ所で実施した。「怖いくらいに『期待しているよ』という声をもらっている」と語る。投票率の低さを懸念し、今回の選挙戦から若者世代を意識したインスタグラムでの投稿にも注力する。

は主要駅でビラを配布する。日中は“青空集会”と

手に持つ原稿に書かれて
いないことも加えるように
なった。「世の中を変える
のは一人一人の人間の力で
す。腐った世の中をみんな
の力で変えていきましょ
う」。(この日も、いつもの
ように演説を締めくくつ
た。

継いで演説会場を巡る。腰に痛みを抱えながらも薬を服用して街頭に立ち続け、声をからしながらも訴えを重ねてきた。「私の立候補によって発達障害の人やマイノリティーの人、市民が勇気づけられることが少しでもあれば幸いです」

貴」と評し、駅頭では市民との対話にも力を入れる。一日の締めくくりにのぼりを片付け、帰路の車内では活動報告を生配信する。

おことわり 川崎市長選に立候補している宮部龍彦氏について、経歴や出馬に当たっては、主張に著しい差別的言動があり、差別が拡散する恐れがあるため、異なる扱いとしておりま